

# 日本気象学会 2021 年度春季大会 協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご協賛を頂きました（2021年4月14日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。

ANEOS株式会社

英弘精機株式会社

三報社印刷株式会社

株式会社セネコム

全日本空輸株式会社

株式会社ソニック

東京ダイレック株式会社

一般財団法人日本気象協会

株式会社ニューテック

ビジュアルテクノロジー株式会社

株式会社フランクリン・ジャパン

株式会社プリード

ヤトロ電子株式会社

（五十音順）

# 日本気象学会 2021 年度春季大会

2021 年度春季大会 (5 月 16~21 日) では、最終日 (21 日, 金) に筑波大学大学会館においてシンポジウム・総会・授賞式・受賞記念講演を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大や変異株の増加、蔓延防止措置などを受け、現地開催をとりやめ、大会期間のすべてのイベントはオンラインにて開催します。詳細は大会ホームページにて随時お知らせしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

会期：2021 年 5 月 16 日 (日) ~5 月 21 日 (金)

総会，授賞式，受賞記念講演，シンポジウム：

開催方式 ~~現地開催とオンライン配信の同時進行~~ オンライン開催

日程 2021 年 5 月 21 日 (金)

会場 筑波大学—大学会館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

<https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-campus/universityhall-a.html>

研究発表：

大会ウェブサイト上に講演資料をおいて議論するオンデマンド形式を主とし、ウェブ会議システム (Zoom) による口頭発表も併用します。

大会実行委員会担当機関：筑波大学，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，農研機構，防災科学技術研究所

大会委員長：植田 宏昭 (筑波大学)

当日の連絡先：準備中。確定後大会ページ (<https://www.metsoc.jp/meetings/2021s>) にて公開予定。

交通の案内：

<https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-access/index.html>

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、一部高速バス等において減便・運休が出ております。最新の情報は各ホームページよりご確認ください。

○JR 各駅から大学会館まで

・JR 常磐線：「土浦駅」西口 3 番，「ひたち野うしく駅」東口 1 番，「荒川沖駅」西口 4 番バス乗り場から「筑波大学中央」行きバスに乗り，「大学会館前」下車 (所要時間約 35-50 分)。

・高速バス：東京駅八重洲南口の高速バス 2 番乗り場より「つくば号」>「筑波大学」行きに乗り，「大学会館」下車 (所要時間約 75 分)。

○つくばエクスプレスでつくば駅まで

・つくばエクスプレス (TX)：「つくば」行きに乗り，終点「つくば駅」下車。

○つくば駅・つくばセンターから大学会館まで

・つくばセンターバスターミナル 6 番乗り場から「筑波大学中央」「筑波大学循環 (右回り)」行きに乗り，「大学会館前」下車 (所要時間約 15 分)。



## ■オンライン大会の参加にあたって

講演や聴講，質疑を行うには気象学会 Google Workspace (G Suite) アカウント (会員) または Google アカウント (非会員) が必要です。Google Workspace アカウント発行の申請は，会員サイト (<https://www.metsoc.or.jp/membersite>) より可能です。

## ■オンライン大会ウェブページ (随時更新中)

大会プログラムの他，講演形態や講演・聴講方法についての説明をご覧ください。

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/spr2021/home>

## ■ご質問等おありの方は，下記メールアドレスか，問い合わせフォームよりご連絡ください。

メールアドレス [kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp](mailto:kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp)

問い合わせフォーム <https://sites.google.com/metsoc.or.jp/spr2021/contact>

# 大会行事予定（オンライン開催）

( ) 内は講演番号と講演数

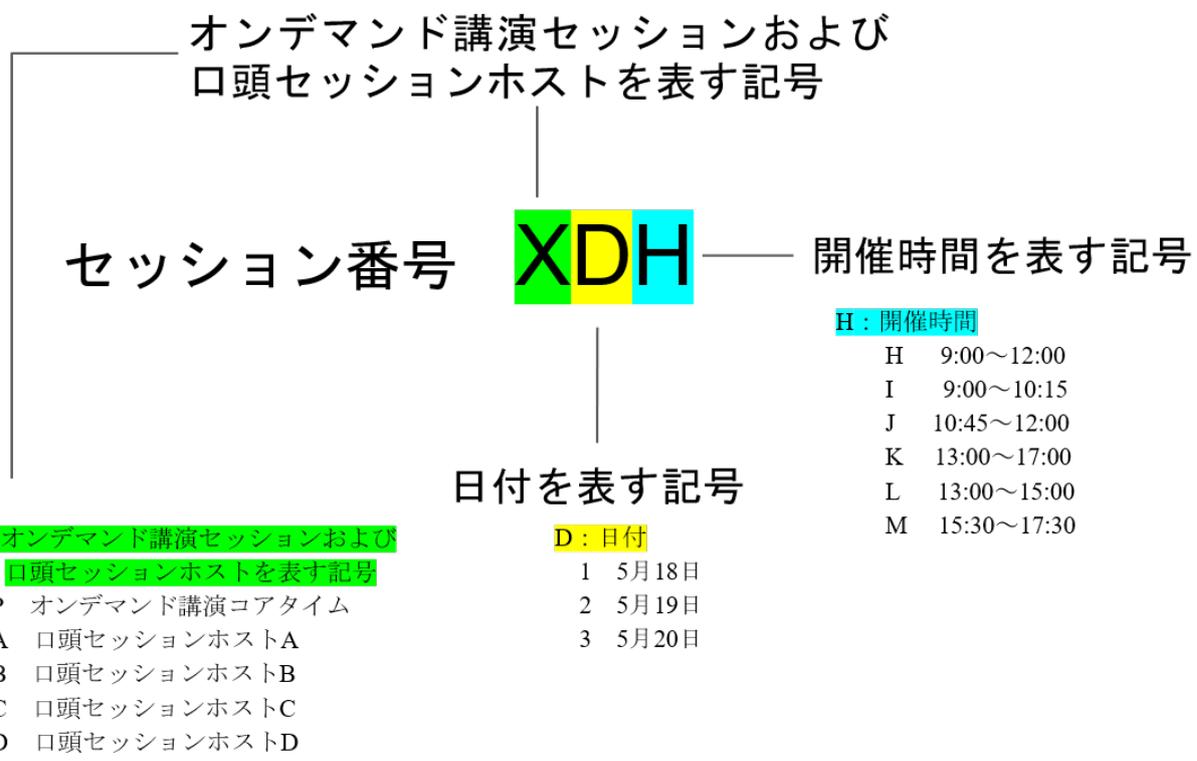
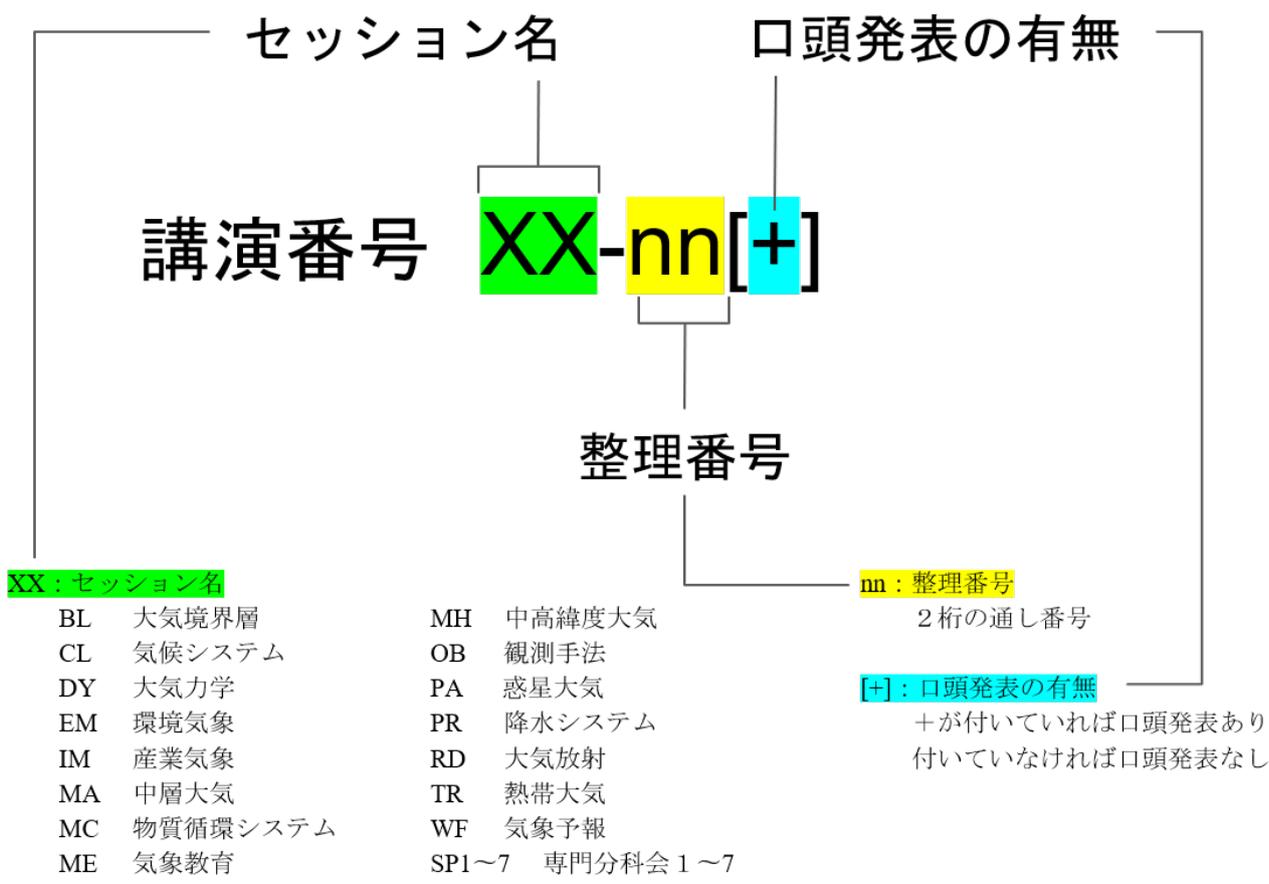
		ホストA	ホストB	ホストC	ホストD	
5月16日（日）		オンデマンド講演				
5月17日（月）		オンデマンド講演				
5月18日 （火）	09:00～ 12:00	A1H 観測手法 (OB, 5)	B1H 降水システム1 (PR, 5)	C1H 気象予報1 (WF, 5)	D1H 環境気象 (EM, 1) 中高緯度大気 (MH, 2) 中層大気 (MA, 2)	
		オンライン交流ツールによるフリートーク（20分程度）				
	13:00～ 17:00	A1H 観測手法 (OB, 6)	B1H 降水システム1 (PR, 6)	C1H 気象予報1 (WF, 5)	D1H 大気力学 (DY, 3) 惑星大気 (PA, 2)	
		A1K 専門分科会1 「大気の鉛直運動を 基軸とした地球環境 学の新展開」(SP1, 13)	B1K 専門分科会4 「気候変動・極端気象 と都市環境」(SP4, 11)	C1K 熱帯大気 (TR, 7)	D1K 大気境界層 (BL, 4) 大気放射 (RD, 2) 物質循環システム (MC, 1)	
		フリートーク（20分程度）				
		C1K 熱帯大気 (TR, 7)	D1K 大気放射 (RD, 2) 物質循環システム (MC, 5)			
5月19日 （水）	09:00～ 12:00	A2H 専門分科会5 「気象衛星ひまわり8 号・9号の利用とその後 継衛星への要望」 (SP5, 10)	B2H 専門分科会7 「アジアの水文気候 学的変動の予測可能性 向上にむけたAsiaPEXの 展望」(SP7, 8)	C2H 降水システム2 (PR, 5)	D2H 気象予報2 (WF, 5)	
		フリートーク（20分程度）				
	13:00～ 15:00	P2L オンデマンド講演コアタイム（59）				
		オンライン交流ツールによるフリートーク（30分程度）				
	15:30～ 17:30	P2M オンデマンド講演コアタイム（59）				
16:30～ 18:30	注) オンデマンド講演コアタイムとジュニアセッションは、一部講演時間が重複しています			ジュニアセッション1	ジュニアセッション2	
5月20日 （木）	09:00～ 10:15	P3I オンデマンド講演コアタイム（94）				
	オンライン交流ツールによるフリートーク（30分程度）					
	10:45～ 12:00	P3J オンデマンド講演コアタイム（95）				
	13:00～ 17:00	A3K 専門分科会2 「気象分野における途 上国支援・協力の現状と 今後の展望」(SP2, 15)	B3K 専門分科会3 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と展 望」(SP3, 17)	C3K 専門分科会6 「理学的観点と防災上 の実用的観点からの線状 降水帯の研究の整理」 (SP6, 12)	D3K 気候システム (CL, 13)	
5月21日 （金）	09:30～ 12:30	シンポジウム 「超学際研究の推進に向けて ～関連諸学会・一般社会との連携～」				
	12:00～ 12:30	総会（書面または電磁的方法による参加票の提出により議案を議決することにします）				
	14:00～ 16:40	日本気象学会賞，藤原賞，岸保・立平賞 表彰式・受賞記念講演				

発表件数：307件（専門分科会86，一般発表221）

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について（[https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrightpolicy.pdf](https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)）」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所内 講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp）まで

## 講演番号とセッション番号の見方



## 講演の方法

大会ウェブサイトに講演方法の詳細を掲載しています。必ずご覧いただくようお願いいたします。

### オンデマンド講演

- ・ 大会ウェブサイト上に掲載された発表資料を閲覧し、発表資料にコメントを残すことで質疑応答を行います。
- ・ 講演者は G Suite の Meet や Chat を使って、オンラインの質疑応答の場を設定することも可能です。
- ・ 気象学会会員は、気象学会が発行する G Suite アカウントが必要になります。
- ・ 気象学会非会員は、通常の Google アカウントが必要になります。

### 口頭発表

- ・ Zoom を使用したウェブ会議システムによってオンライン上で口頭発表を行います。
- ・ 講演 1 件あたりの持ち時間は 14 分（講演 11 分・質疑 3 分）です。

### 専門分科会

- ・ オンデマンド講演に加えて、口頭発表 (Zoom を使用) を行います。発表時間等の詳細については世話人からの指示に従ってください。

### 注意事項

- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
- ・ インターネット接続環境、オンデマンド講演・口頭発表に必要なパソコン、マイク、スピーカー等の機材は各自で準備して下さい。
- ・ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

## お知らせ

(領収証について)

領収書は、大会申込用サイト (<https://secure.visitors.jp/msj2/>) にて参加登録および決済が終了次第、同サイトから PDF 版をダウンロードすることができます。紙媒体の領収書が必要な場合は、講演企画委員会 ([kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp](mailto:kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp)) までご連絡ください。

(電子版予稿集について)

参加者には、「講演予稿集ダウンロード用パスワード」を事前にお知らせします。

## 総会

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、会員の皆さまの健康と安全を第一に考え、監督官庁である内閣府の了解のもと、総会会場にお集まりいただかないこととし、書面あるいは電磁的方法による参加票（議決権行使書、または議決権行使の委任状）の提出により各議案を議決することにします。

日時：大会第3日（5月21日）12:00～12:30

場所：日本気象学会事務室

議事次第： 【審議事項】 議案1 2020年度事業報告  
議案2 2020年度決算報告  
議案3 2020年度監査報告  
【報告事項】 報告1 2021年度事業計画  
報告2 2021年度収支予算

# シンポジウム

## 「超学際研究の推進に向けて ～関連諸学会・一般社会との連携～」

日時：2021年5月21日（金）（大会第3日）9:30～12:30（開場：9:00）

場所：筑波大学 大会館ホール

司会：植田宏昭（筑波大学 生命環境系）

趣旨：日本気象学会は気象学・気候学、これに関連する幅広い学問分野の研究者、国・自治体・民間企業等の気象技術者、大学・学校等の教育関係者、気象愛好家などの会員から構成されています。2013年、日本気象学会は公益社団法人となり、防災・減災、気候・環境問題などを通じ、社会貢献への期待が高まっています。他方、1990年代には大学院重点化が始まり、2000年代には国立大学および研究機関が法人化されました。教育研究システムが大きく改変されただけでなく、国立大学の運営費交付金の減少に代表される基礎研究を支える研究基盤の維持が困難になりつつあります。

数値予報の進歩に見られるように、気象学・気候学は、様々な分野の基礎研究や応用研究さらには気象業務がお互いに連携しながら、観測と理論を両輪として発展してきました。このことは、気象防災・減災さらには温暖化をはじめとする人為的な地球環境問題に対しても言えるのではないのでしょうか。広義の社会貢献という意味では、グローバルな気象・気候監視や観測システムの構築を進める上で、国際連携も日本気象学会が積極的に取り組むべき課題です。

そして何よりも大事なものは、科学研究の推進や社会実装に欠かせない人材の育成です。気象学を志す若手の複数のキャリアパスを構築するためには、日本気象学会だけでなく日本気象予報士会など、様々な団体との連携強化が必要です。2011年に公益社団法人化された地球惑星科学連合では、関連学会とその事業の再編が進んでいます。日本気象学会を取り巻く環境が劇的に変化の中で、関連する学会・団体からの論客をお招きし、将来展望について議論を進めたいと思います。

### プログラム：

9:30-9:40 シンポジウム趣旨説明 植田宏昭（筑波大学 生命環境系）

9:40-10:10 「海洋学会との連携について」 谷本陽一（北海道大学 大学院地球環境科学研究院教授）

10:10-10:40 「気象予報士会と気象学会の連携について」 岩田 修（日本気象予報士会 副会長）

10:40-11:10 「社会における学会（学術コミュニティ）のあり方について」 安成哲三（総合地球環境学研究所長）  
休憩

11:20-11:50 「地球惑星科学連合との連携について」 田近英一（東京大学 大学院理学系研究科教授）

11:50-12:10 「気象学会の将来展望」 日本気象学会理事長 佐藤 薫（東京大学 大学院理学系研究科教授）

12:10-12:30 総合討論

※講演タイトル及び講師は変更となる場合があります。

### 問い合わせ先：

シンポジウムの内容等について：植田宏昭（筑波大学 生命環境系）

TEL：029-853-4430, E-mail：ueda.hiroaki.gm@u.tsukuba.ac.jp

手続や予稿集等について：菅田誠治（国立環境研究所）

TEL：029-850-2457, E-mail：sugatas@nies.go.jp

## 専門分科会の概要紹介

### 大気鉛直運動を基軸とした地球環境学の新展開

オンライン口頭発表日時：

2021年5月18日（火）（大会第1日）13:00～17:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）9:00～10:15

趣旨：大気鉛直運動は大気循環の様々なスケールで重要な役割を果たしており、全球的な大気循環はもとより、集中豪雨をもたらす積乱雲、雲降水形成過程、人為起源温室効果ガス等の物質の鉛直輸送、対流圏・成層圏の物質交換といった地球環境の諸問題において、中心的な役割を果たしている。大気

鉛直運動を広域で直接観測することは難しく、数値モデルにおいても解像度に依存するなど、現状においてもその実態がよく理解されているとはいえない。本分科会では新しい観測技術によって捉えられた鉛直運動の観測研究、EarthCARE 衛星等の今後の雲の鉛直運動観測、高解像度数値モデリング、解析・理論の多様な側面から大気鉛直運動にアプローチし、大気鉛直運動に関する包括的な理解の深化を通じて、地球環境学に関する新しい研究の展開をめざすための議論を行う。

世話人：佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所），佐藤薫（東京大学大学院理学系研究科），伊藤純至（東北大学理学研究科），丹羽洋介（国立環境研究所），清木達也（海洋研究開発機構），増永浩彦（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

## 気象分野における途上国支援・協力の現状と今後の展望

オンライン口頭発表日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）13:00～17:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）9:00～10:15

趣旨：日本国際協力機構(JICA)はアジアを中心として気象分野の技術協力プロジェクトや無償資金協力によって途上国支援を進めており，対象を大洋州やアフリカに広げている．気象庁は途上国気象局を対象とする JICA 集団研修を 1973 年から，また世界気象機関(WMO)の枠組みで気象観測・予報，熱帯低気圧，気候情報の研修やワークショップを開催している．大学や研究機関は科学技術振興機構(JST)，日本学術振興会(JSPS)，地球規模課題対応国際科学技術プログラム(SATREPS)などによる研究協力プログラム，留学生の受入れ等を通じて途上国の研究・教育の発展に貢献している．

本専門分科会では招待講演も含め，これまで各分野が個別に実施してきた途上国の支援・協力を振り返り，現状の問題点や課題を整理し，より効果的な支援・協力のあり方，機関間の情報交換や人的交流による連携強化の道を模索する．

世話人：赤津邦夫（元国際協力機構），石原正仁（国際協力機構），岡垣昌（気象庁），余田成男（京都大学）

## 気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

オンライン口頭発表日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）13:00～17:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）10:45～12:00

趣旨：平成 19 年に気象庁と日本気象学会は共同研究契約を締結し，「気象研究コンソーシアム」を設立しました．これ以降，気象庁の数値予報データや気象衛星ひまわりなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ，気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています．本分科会では，①数値予報データを利用した研究，②観測データを利用した研究，③数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究，などに関する講演を募集し，気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します．また，先端技術の展望等を踏まえ，様々な主体が担う気象業務が，今後さらなる発展を遂げ様々な社会的課題の解決に一層貢献していくことに産学官が連

携して取り組んでいくために必要な気象データや解析・予報技術等の共有のあり方などについても議論します．

なお，本分科会への講演申込には，コンソーシアムへの参加の如何は問いません．

世話人：坪木和久（名古屋大学宇宙地球環境研究所），林祥介（神戸大学），本田有機（気象庁），石田純一（気象庁数値予報開発センター）

## 気候変動・極端気象と都市環境

オンライン口頭発表日時：

2021年5月18日（火）（大会第1日）13:00～17:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）10:45～12:00

趣旨：都市には，人口が集中し，社会経済活動が集中し，気候変動や極端気象からさまざまな影響を受ける．このセッションではそれらによる問題の解決に向け，以下のテーマに関連する研究の投稿を募集する．

- 1) 都市環境に対する気候変動・極端気象の影響．
- 2) 都市化に関わる環境問題，すなわち都市住民の健康，大気汚染，エネルギー需要，水循環など．
- 3) 持続可能な都市発展を目指すため，気候変動・極端気象に対応できる独創的かつ持続的な緩和・適応策の提案．

世話人：Doan Quang Van（筑波大学），藤部文昭（東京都立大学），竹見哲也（京都大学），菅原広史（防衛大学校），梶野瑞王（気象研究所），日下博幸（筑波大学）

## 気象衛星ひまわり 8 号・9 号の利用とその後継衛星への要望

オンライン口頭発表日時：

2021年5月19日（水）（大会第2日）9:00～12:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）9:00～10:15

趣旨：気象衛星ひまわり 8・9 号は，2029 年度には運用を終える予定である．このため後継衛星を 2028 年度には打ち上げる必要があり，製造期間も考慮すると 2023 年度にはその製造を開始する必要がある．2021 年度は仕様の詳細を固めるステージとなっており，後継衛星に関わる要望を仕様に反映させるには，本会は広く意見を求める残り少ない機会の一つになる．

本会では，現在のひまわりデータの利用や今後の利用計画に関する講演を広く募集する．講演の中では，その技術開発やデータ利用を通じて得られた，後継衛星に関する要望も発表していただきたい．本会での議論を通じて，これまで気象学会等で議論してきたイメージャのバンド選択や，赤外サウンダ・雷センサ等の必要性のみならず，観測モードやデータ品

質、配信のフォーマット・時間・方法、アーカイブ手段など、後継衛星の仕様の詳細検討に必要な事項について幅広く議論することを予定している。

世話人：別所康太郎（気象庁気象衛星課）、岡本幸三（気象研究所気象観測研究部）、中島孝（東海大学）、樋口篤志（千葉大学）、本多嘉明（千葉大学）

### 理学的観点と防災上の実用的観点からの線状降水帯の研究の整理

オンライン口頭発表日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）13:00～17:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）10:45～12:00

趣旨：近年、線状降水帯による大規模な水害や土砂災害が頻発している。メディアにも大きく取り上げられ、国民の大きな関心となっている。線状降水帯は、定性的には「複数の積乱雲が組織化することで発生する数時間程度の強い降水域」とされており、線状降水帯という言葉は、特有の物理プロセスによる降水形態（降水システム）の発現、それに伴う線状に広がる降水域の2つの意味が内在し、原因と結果を1セットとして捉えている。線状降水帯の形成・維持のメカニズムには未解明の点が多いことに加え、“線状に延びる降水域”を認識でき、かつ、災害につながる雨量の具体的な閾値は地域によって幅が大きいことから、その明確な定義は難しい。線状降水帯の発生・発達プロセスやそのメカニズムの解明に向けた学術的視点と、防災上の様々な対応に向けた実用的視点の両方から、線状降水帯とは何かを整理し、最新の線状降水帯の研究を共有する専門分科会を開催する。

世話人：清水慎吾（防災科研）、前坂剛（防災科研）、清野直子（気象研）、廣川康隆（気象研）、増田有俊（日本気象協会）

### アジアの水文気候学的変動の予測可能性向上にむけた AsiaPEX の展望

オンライン口頭発表日時：

2021年5月19日（水）（大会第2日）9:00～12:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2021年5月20日（木）（大会第3日）9:00～10:15

趣旨：AsiaPEX (Asian Precipitation Experiment)は、多様な水文気候学的条件下にあるアジアの陸上降水の理解を通じた予測可能性向上と減災、持続可能な発展への貢献を目的として発足し、2年目を迎える。この間、6つのアプローチ（(1)アジアの降水の観測と推定、(2)陸面大気カップリング、(3)季節内変動スケールから十年規模に至る予測可能性、(4)人間活動や雪氷圏も含む高解像度水文モデリング、(5)効果的な観測モデリング計画の立案、(6)信頼できる気候変動予測の探求）に基づく研究が推進されてきた。本専門分科会では、最近の研究活動を相互に交流するとともに、今後3年間のサイエンスの焦点を展望する。「予測可能性」を本セッションの共通するテーマとして設定することにより、AsiaPEX 全体に共通する課題を確認したい。関連するすべての発表を歓迎する。

世話人：寺尾徹（香川大学教育学部）、鼎信次郎（東京工業大学環境・社会理工学院）、松本淳（東京大学都市環境学部）

## ジュニアセッションのお知らせ

第7回日本気象学会ジュニアセッション(2021年)をオンライン開催します。最新情報は下記ジュニアセッションのホームページをご確認ください。

[https://www.metsoc.jp/about/educational\\_activities/junior\\_session/junior\\_session\\_2021/intro](https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session/junior_session_2021/intro)

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。

※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時：2021年5月19日（水）16:30～18:30 Zoomによる口頭発表  
2021年5月16日（日）～21日（金）大会ウェブサイトでのオンデマンド講演

開催形式：オンライン

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待し、日本気象学会2021年度春季大会の開催に合わせて、高校・中学生世代を対象に「ジュニアセッション」を開催します。生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験し、意見交換することによって

調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。

**発表者**：高等学校、高等専門学校生(1~3学年)、中学校の生徒。

**発表形態**：大会ウェブサイトのポスター掲載と発表 (Zoom または大会ウェブサイトでの動画掲載)。詳細はジュニアセッションのホームページをご覧ください。

**発表内容**：生徒 (個人またはグループ) による気象・気候や大気についての調査・研究成果。詳細はジュニアセッションのホームページをご覧ください。

**問い合わせ先**：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会 ジュニアセッション担当

E-mail : msj-ed\_2021@netsoc.jp (ジュニアセッション担当)

Tel : 03-6453-0611 Fax : 03-6453-0612 (学会事務局)

## 研究会のお知らせ

大会期間中に研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第53回メソ気象研究会・気象災害委員会合同研究会

**日時**：2021年5月17日(月) 13:00~17:15

オンライン開催

**テーマ**：「甚大な災害をもたらした2019年台風第15号と第19号の実態に迫る」

**コンビーナー**：柳瀬 亘(気象研)、宮本佳明(慶應義塾大学)、加藤輝之(気象研)、益子 涉(気象研)

**趣旨**：2019年9月9日に千葉県付近に上陸した台風第15号は、統計の残る1991年以降において最も強い勢力で関東に上陸した台風となり、関東地方を中心に多くの地点で観測史上1位の最大風速・最大瞬間風速を記録しました。これにより、房総半島を中心に7万戸以上の住家被害や大規模停電が発生しました。また、台風第19号は10月12日に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、総雨量は神奈川県箱根町で1000ミリに達しました。この東日本の広範囲における記録的な大雨により、河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生し、死者・行方不明者は100名を超えました。

気象庁は、顕著な災害をもたらしたこれらの台風について、後世に経験や教訓を伝承することなどを目的に、台風第15号については「令和元年房総半島台風」、台風第19号については「令和元年東日本台風」と名称を定めました。

今回は、メソ気象研究会と気象災害委員会の合同研究会として、台風第15号に伴う暴風と台風第19号に伴う大雨を取り上げ、台風自体の構造、暴風や大雨の発生要因、洪水予測について最新の知見を講演していただくことにしました。なお、本研究会は2020年5月23日に開催を予定していましたが、コロナウイルス感染拡大に伴い延期していました。

参加を希望される方は事前の申し込みをお願いいたします。申し込み方法等はメソ気象研究会のウェブサイトに掲載いたします。

<http://meso.sakura.ne.jp/mesoken>

**プログラム**：

13:00-13:10 開会挨拶・趣旨説明

13:10-13:35 「台風第15号の発生・発達環境場について」 筆保弘徳(横浜国立大)

13:35-14:00 「台風第15号の強度・構造変化について」 宮本佳明(慶應義塾大学)

14:00-14:25 「台風第15号に伴う暴風・突風の特徴」 益子 涉(気象研)

14:25-14:50 「台風第19号による豪雨発生の環境条件：湿度条件の重要性」 竹見哲也(京大)

14:50-15:05 休憩

15:05-15:30 「Xバンド偏波レーダを用いた台風第19号に伴う大雨の解析」 三隅良平(防災科研)

15:30-15:55 「台風第19号による大雨の降水強化メカニズムの数値シミュレーション」 荒木健太郎(気象研)

15:55-16:20 「台風第19号の非対称な降水分布：中緯度プロセスの影響」 柳瀬 亘(気象研)

16:20-16:45 「リアルタイム陸面・河川モニタリングシステムを用いた洪水予測」 日比野研志(東大)

16:45-17:15 総合討論

**世話人**：坪木和久(名大宇地研)、加藤輝之(気象研)、小倉義光(東大大気海洋研)

**連絡先**：加藤輝之(気象研)

E-mail : teruyuki\_kato@met.kishou.go.jp

### 第9回気象学史研究会

**日時**：2021年5月19日(水) 18:00~20:00

オンライン(リアルタイム)開催

**テーマ**：「モンスーンアジアの気象データレスキュー」

**趣旨**：モンスーンアジア(東~南アジア)における過去の気象観測資料のデータレスキュー活動について、お2人の講演者に紹介して頂きます。

**プログラム**：

1. 久保田尚之(北海道大学)「台風関連データのデータレスキューと観測の歴史的背景」

2. 松本 淳(東京都立大学)「ACRE-Japan でのアジ

「アモンスーン域におけるデータレスキュー」

司会：藤部文昭（東京都立大学）

**参加方法：**

日本気象学会員であるか、春季大会に参加するかどうかに関わらず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。参加費は無料です。参加を希望される方は事前申し込みをお願いいたします。参加申し込み方法等は気象学史研究連絡会ウェブ

サイト（下記）に掲載いたします。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

**連絡先：**山本 哲（研究連絡会世話人・元気象研究所）  
上記ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。

---

## 保育施設の利用について

気象学会では、大会期間中の保育施設利用費用の一部補助を行います。

学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

[https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare\\_support\\_guideline.pdf](https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare_support_guideline.pdf)

保育施設への申込は直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局・下記担当者へ5月11日（火）までにご連絡下さい。

保育施設の利用を検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

連絡先 気象学会事務局

E-mail: [chief@metsoc.jp](mailto:chief@metsoc.jp)

TEL: 03-3216-4403

---

## 2021 年度秋季大会の予告

2021 年度秋季大会は、2021 年 12 月 2 日（木）～12 月 8 日（水）に三重大学で開催される予定です。大会告示は「天気」5月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申込締切は2021年7月頃となる予定です。